

人間行動の心理学(応用)プログラム

現実問題への心理学の応用方法について理解できるようになります

心理学は人間の心理や行動における法則性を明らかにするとともに、実社会における問題解決に生かしてきました。本プログラムでは、心理学の応用領域における知見と方法論に関して学びます。

必修である臨床心理学概論 A・Bの受講を通じて、臨床心理学の成り立ちを理解し、臨床心理学における代表的な理論と技法についての基本的な知識を修得することができます。その上で、教育や学校における問題、司法や犯罪における問題、障害に関する問題、健康や医療における問題に対する心理学の応用に関する知見について学びます。

選択科目の教育・学校心理学A・Bでは、学校に関わる心理学的問題や支援法、司法・犯罪心理学A・Bでは、法律、制度、犯罪や非行の原因と支援、家事事件、アセスメント等、障害者・障害児心理学A・Bでは、各種の障害の定義、原因、心理・行動特性、および基本的な支援方法、健康・医療心理学A・Bでは、健康心理学に関する理論や知見および医療や保健活動の現場における心理社会的な課題と支援に関する知識を獲得できます。

正課の授業科目を利用したリスキリングプログラム科目一覧

プログラム名	人間行動の心理学(応用)プログラム
プログラム設置部局	人間社会学域
プログラムコーディネーター	荒木友希子
概要	心理学は、人間の行動とその背景にある心の働きに関する法則性や原理を科学的な観点から明らかにしてきました。その知見は、様々な職種の方がそれぞれの立場で利用・応用することができるものです。このプログラムでは、心理学の応用領域について、臨床心理学の概要について学ぶとともに、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、障害者・障害児心理学、健康・医療心理学の基礎的な知識を学びます。本プログラムの修了により、実社会における人間行動について、心理学的な視点から理解・分析できるようになります。
到達目標	本プログラムの修了により、以下の能力・スキルを身につけることができます。 ①臨床心理学とはどのような学問か、その対象や領域、基本的な研究法について理解できる。 ②教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、障害者・障害児心理学、健康・医療心理学における基本的な概念、現象、研究方法について説明できる。 ③様々な場面における人間の心理や行動について、科学的な知見に基づいて分析できるようになる。 ④人間行動の心理学(基礎)プログラムの修了および自習による学習を含めて、心理学検定1級合格程度または大学院博士前期課程(修士課程)受験の基礎となる知識を獲得することができる。
履修資格・条件・前提知識の目安	人間行動の心理学(基礎)プログラムを修了していることが必要です。大学において心理学教育を受けて卒業された方は心理学コア・プログラムを修了していなくても履修が可能ですが、人間行動の心理学(基礎)を先に履修されることを推奨します。
履修期間及び開始Q	履修期間Q1からQ4、開始Q:Q1
修了要件	10科目中から6単位以上を修得すること

授業科目名	開講学類等	単位数		修了要件内訳	備考
		必修	選択		
臨床心理学概論A	人文学類	1		選択	各授業はAとBをセットで履修することが望ましい
臨床心理学概論B	人文学類	1		選択	
教育・学校心理学A	人文学類		1	選択	
教育・学校心理学B	人文学類		1	選択	
司法・犯罪心理学A	人文学類		1	選択	
司法・犯罪心理学B	人文学類		1	選択	
障害者・障害児心理学A	人文学類		1	選択	
障害者・障害児心理学B	人文学類		1	選択	
健康・医療心理学A	人文学類		1	選択	
健康・医療心理学B	人文学類		1	選択	

特記事項	
------	--

正課の授業科目を利用したリスキリングプログラム科目一覧

問合せ先	プログラムコーディネーター: 人間社会学域人文学系 谷内通・荒木友希子 メールアドレス: yukikoa@staff.kanazawa-u.ac.jp (荒木友希子) 担当: 人間社会系事務部学生課教務・学生係 メールアドレス: n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp
------	--

プログラム名						
人間行動の心理学(応用)プログラム						
プログラムのCP(教育課程編成に関する基本的考え方)						
本プログラムでは、心理学の応用的分野に関連する専門教育科目を体系的に編成する。						
教育内容・教育方法(教育課程実施)に関する基本的考え方						
<p>1.教育内容</p> <p>(1)臨床心理学の全体像と心理学の応用的領域の基本的知見について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目である「臨床心理学概論A」と「臨床心理学概論B」の履修により、臨床心理学の対象、歴史、方法論の全体像について学ぶ。 ・受講者の関心に基づいて、「教育・学校心理学A」「教育・学校心理学B」「司法・犯罪心理学A」「司法・犯罪心理学B」「障害者・障害児心理学A」「障害者・障害児心理学B」「健康・医療心理学A」「健康・医療心理学B」の8科目から4科目以上を履修することで、心理学の様々な応用領域における基礎的な知見を学ぶ。 <p>2.教育方法</p> <p>(1)講義の受講と課題提出による知識の整理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面またはオンデマンド動画の視聴、および質疑応答による授業の受講を行う。 ・ミニツッパーパーによる授業内容の整理を行い、知識の定着を図る。 ・予習・復習により、授業内容と実社会の問題との関連について考察することを重視する。 						
プログラムを構成する科目						
科目番号	授業科目名	学修目標	Q1	Q2	Q3	Q4
42639	臨床心理学概論A	臨床心理学の成り立ちを理解し、代表的な理論と技法についての基本的な知識を修得する。			○	
42640	臨床心理学概論B	臨床心理学の知識に基づき、心理的問題を理解し、基本的な心理的支援の方法を習得する。				○
42670	教育・学校心理学A	学校に関わる事柄において、子どもたちに心理的苦痛を与えるものがどのようなものであるかを理解し、教職員としてどのような支援が行えるのかを考察することができる。	○			
42671	教育・学校心理学B	学校に関わる事柄において、子どもたちに心理的苦痛を与えるものがどのようなものであるかを理解し、教職員としてどのような支援が行えるのかを考察することができる。		○		
42659	司法・犯罪心理学A	司法・犯罪分野に関する法律、制度、犯罪や非行の原因と支援、家事事件、心理学的アセスメント等についての基本的な知識を修得する。			○	
42660	司法・犯罪心理学B	司法・犯罪分野に関する法律、制度、犯罪や非行の原因と支援、家事事件、心理学的アセスメント等についての基本的な知識を修得する。				○
42657	障害者・障害児心理学A	身体障害、知的障害、精神障害の定義、原因、心理・行動特性、および基本的な支援方法、特別支援教育と合理的配慮の概要について理解し、説明することができる。			○	
42658	障害者・障害児心理学B	身体障害、知的障害、精神障害の定義、原因、心理・行動特性、および基本的な支援方法、特別支援教育と合理的配慮の概要について理解し、説明することができる。				○
42631	健康・医療心理学A	健康心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようになる。			○	
42632	健康・医療心理学B	医療や保健活動の現場における心理社会的な課題と支援についての知識を獲得する。				○